

海洋掘削の日足チャート

海洋掘削ストップ安

会社社更生受理され上場廃止へ

洋掘削市況の長期低迷により業績が悪化、18年3月期で3期連続赤字を計上し、155億円の債務超過

25日、日経225指数は前日比0.6%増の18,255.87。東京証券取引所先物市場は、先物市場は前日比0.6%増の18,255.87。東京証券取引所先物市場は、先物市場は前日比0.6%増の18,255.87。

ペガサス急伸し新値

25日、ペガサスミシン製造(6262)が急伸、年初来高値を更新した。いちよし証券が新規にレイトインダグ「A」、フェアバリューを1500円としたことが手掛かり。新製品投

シャープ需給悪化懸念

25日、シャープ(6753)が売られた。7837万5000株の普通株式とオーバードットメントとして787万5000株の売り出しも実施することから、需給悪化懸念が台頭した。

今週の動意銘柄

26日、ヴィンクス(3784)が急反発、ストップ高まで買われた。台湾IT大手大手クラウドと業務提携すると発表したことを受け、協業による事業拡大を期待した買いが向かった。タッチ決済システムやシ

ヨッピングモール向けテナント管理システムをはじめとしたソリューションを台湾、中国の日系企業を含む流通・サービス業に提供しており、同社のPOS、CRM、MDなどシステムやITサポートノウハウを融合してアジア

石油関連先物上昇

からの小幅増産で合意、その後、原油先物価格が上昇したことが好感された。

25日、JXホールディングス(5020)、出光興産(5019)、昭和シェル石油(5022)、国際石油開発帝石(1605)などの石油関連株が買い進まれた。22日のOPEC総会で7月

ヴィンクス台湾大手と提携

26日、ヴィンクス

26日、国際紙パルプ商事(9274)が東証一部へ新規上場、公開価格344円を30.8%上回る450円で初値が生まれた。同社は国内外における紙パルプ卸売業を展開する。

公開価格31%上回る

国際紙パルの初値

26日、しまむら(8227)が続急落、年初来安値を更新した。19年2月期第1四半期の連結決算を発表、営業利益7億7500万円(同31.7%減)、純利益47億8200万円(同

しまむら32%減益

32.7%減)と大幅な減益だった。31店舗で改装を実施した影響がでているようだ。通期は営業利益510億500万円(同18.9%増)、純利益350億円(同17.8%増)と従来予想を据え置いている。

正直いいさんの株で大判小判

29日の東京市場は後場から戻しました。前場は小高く寄り付いたあと、米国とその他主要国との貿易摩擦問題への懸念がくすぶるなか、週末要因による持ち高調整の売りに押されていました。為替が110円70銭台と円安に振れていることや後場からは日銀によるETF買い期待もあり急速に戻しています。6月最終週はナイトセッションの先物で2万2000円割れりましたが、場面もあまり戻りませんが、場面では向いて売られた問題ないと思いま

売られる場面あれば買い

ピックアップ(6869)、ダイキン(6367)はスピード調整で25日線の攻防ながら、ソウルドアウト(6553)は急反発に転じ、押し目買い継続です。花咲翁



地域活性化と市民生活に貢献

江崎グリコ

埼玉県北本市と包括連携協定

東グリコ（埼玉県北本市）は、地域の活性化と市民サービス向上を目的に埼玉県北本市と相互に協力する包括連携協定を結んだ。

関東グリコは北本市にポッキーやプリッツの最新鋭生産ラインを12年4月に稼働。製造ライン見学のほか、工場内に併設した企業ミュージアム「グリコピア・イースト」では創業者の資料映像上映や過去の主要製品などを展示しており、オープン以来、来場者は45万人を突破している。こうした企業活動を通じ、北本市と協働して持

企業レター

江崎グリコ（2206）の生産子会社の関

続可能なまちづくりに貢献する方針で、観光、産業、学校教育、市民生活の4項目で具体的な取り組みを進めていく。

観光では工場見学について「北本デー」を設け、市の観光情報発信に協力、イベントなどでも相互協力する。産業はふるさと納税返礼品の取り扱い協力や特産品開発などのアドバイス、学校教育は市内小学校の工場見学、小中学校の「職場体験」の受入れで協力する。市民生活では市民の優先的雇用に加え、企業理念である「おいしさ」と健康に関する講演などの開催で協力する構え。

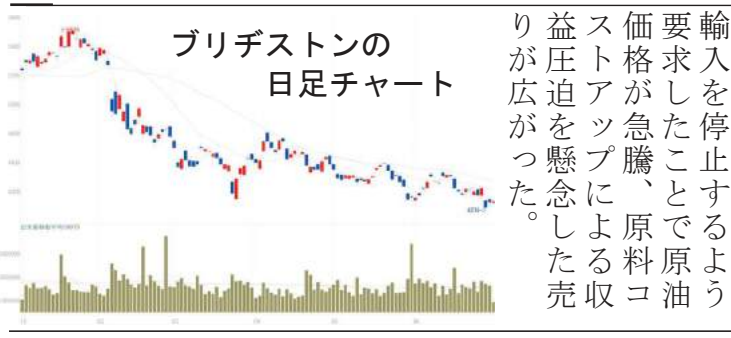
28日、津田駒工業（6217）が続落、年初来安値を更新した。18年11月期第2四半期累計の連結業績予想を修正、売上高を200億円から199億円（前年同期比13・7%増）、営業利益を3億5000万円から2億4000万円（同6・3倍）へ減額した。繊維機械事業・工作機械関連事業ともに生産・売上は拡大している

が1Qの落ち込みをカバーできていない。公開価格の3.5倍

28日、前日に東証マザーズ市場に新規上場したエーアイ（4388）は公開価格1000円の3・5倍となる3500円で初値が生まれた。音声合成エンジン及び音声合成に関連するソリューションの提供を行う。

タイヤ値下りトップ

原油急騰でコストアップ懸念



28日、USEN IN NEXT HOLDING（9418）が急伸、年初来高値を更新した。傘下のUSENを通じて店内放送／館内放送向けインバウンド・バリアフリー対応サービスとして、iPadを利用したアナウンスアプリと定時放送用ミキサー「おもてなしキャスター」の販売を開始すると発表。SoundUDへの対応の受信アプリへ

転ばぬ先のテクニカル

最大分岐点

早いもので1年の半分が経過しました。昨年の大納会の終値は2万2764円、今年の大発会の寄り付きは2万3073円、高値は1月23日の2万4129円、安値は3月26日の2万347円です。上下幅3782円で現在はその真ん中あたりに位置しておりますが、年足は陰線形成中です。今週から年後半の相場に移りますが、目先的には6月21日高値の2万2782円と5月30日の2万1931円のどちらに放れるのかが重要であり、ここが最大分岐点です。

日経平均は概ね36カ月サイクルで天底をつけており、時間的にはまだ2カ月上昇余地を残していますので、2万2782円を超えると年初来高値更新へ向けた上昇が期待できますが、逆に2万1931円を割り込みだすと2015年8月以来の12カ月線割れとなり、下への値幅が大きくなるでしょう。

日々勇太郎

津田駒は2Q下方修正

28日、津田駒工業（6217）が続落、年初来安値を更新した。18年11月期第2四半期累計の連結業績予想を修正、売上高を200億円から199億円（前年同期比13・7%増）、営業利益を3億5000万円から2億4000万円（同6・3倍）へ減額した。繊維機械事業・工作機械関連事業ともに生産・売上は拡大している

高値から調整相場の範疇

反転「サイン」いつ発生するか

国際テクニカルアナリスト 武蔵 宗久 氏

今年前半の世界の株式市場を総括する。

先進国において今年前半の高値から安値の下落率は、日経平均が約15%、NYダウは約12%、FTSE(英)は約13%、DAX(独)は約13%、CAC(仏)は約10%で平均すると約13%下落した。そして安値を記録した時期はすべて3月の後半であった。

BRICsにおいて高値から安値の下落率は、ボブスパ(ブラジル)が約20%、RTS(ロシア)は約18%、上海(中国)は約24%、SENSEX(印)は約10%であった。平均すると約18%の下落率で、先進国と比較すると大幅な下落率になった。

そして高値を付けたのが共に1月後半から2月後半にかけて記録し、その後、ボブスパと上海市場は、直近で安値を更新中である。この検証の結果から、BRICsの相場状況から、当面非常に悩ましい相場展開を予想する。

しかし、先進国の現在の相場を今年と比較すると、日経平均は約8%、NYダウは約3%、FTSEは約10%、DAXは約6%、CACは約5%の上昇していることから、全体的に株式市場は今年の高値からの調整相場の範疇で推移しているものと判断する。

当面注目すべきは、先進国およびBRICsの株式市場において、

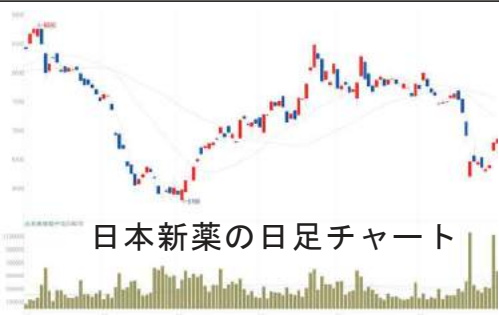
相場展望

近い将来起きるであろう、テクニカル分析での相場反転「サイン」がいつ発生するのか注意深く見守る必要がある。

日本新薬有用性発表

米で筋ジストロフィー薬について

28日、日本新薬(4516)が継続。米ニューオーリンズで開催中の医薬関連学会でデュシエンヌ型筋ジストロフィー治療薬「NS-065/NCNP-01」の有用性を示す結果を発表したことが買手がかりになった。NS-065/NCNP-01により誘導されるジストロフィンタンパク質のレ



日本新薬の日足チャート

ベルは、報告されたDMDエクソンスキ

シャープ公募増資中止

週末29日、シャープ(6753)が急反発、東証1部値上がり率トップに買われた。公募増資による新株式発行と株式売出しを中止すると発表したことをポジティブ視。1株利益の希薄化と需給圧迫を警戒した売りに調整を強いられていた反動で、買い戻しや見直し買いが膨らんだ。

ヒマラヤ急落し安値

29日、ヒマラヤ(7514)が急落、年初来安値を更新した。18年8月期3Q累計

ツピングの他の臨床試験と比べて高く、有効性と安全性が確認され、DMD患者でジストロフィンタンパク質の発現が確認できたとしている。

の連結決算を発表、売上高は512億1800万円(前年同期比7.5%減)、営業利益は9億5300万円(同43.5%増)、純利益は8億700万円(同86.9%増)だった。前年同期間の売上高比較では店舗数の減少の影響を受けている。

公開価格7.8%上回る

スプリックスの初値 29日、スプリックス(7030)が東証1部に新規上場、公開価格2400円を7.8%上回る2587円で初値が生まれた。個別指導学習塾の運営を中心とした、教育サービス事業を展開する。

今週の動意銘柄

企業レター

プレイング・ウイズおさるのジョージ 新アトラクションのセレモニー開催

USJ

「プレイング・ウイズおさるのジョージ」の一般公開（6月30日グランド・オープン）に先駆け、6月26日にアトラクションのオープンを祝



「プレイング・ウイズおさるのジョージ」のオープニング・セレモニー

ユニバーサル・スタジオ・ジャパンは、「プレイング・ウイズおさるのジョージ」のオープニング・セレモニーに、日本中の家族、子供たち、大人気の横山だいすけさんが作品にも登場するジョージの友達に似たイエローの衣装でサプライズ登場。一足早く子どもたちと一緒にアトラクションを体験した横山さんは、ジョージに教えてもらったという「おさるの

ダンス」を子どもたちと一緒に披露。そして、愛らしい表情の子ども達が「Let's ジョージ！」と叫び、元気のいい声が響き渡ると、シャボン玉のような風船が舞い上がり、大量のイエローの紙吹雪で会場が包みこまれた。同時に公開された「ウォーター・サプライズ・パレード」では、びしょ濡れになって、ひと足早く夏を満喫するゲストの様子が見られた。毎年恒

豪華4名が勢揃い

「ジュラシック・ワールド／炎の王国」 スペシャルイベント開催



全世界トータル興行収入16億7000万ドルを突破し、世界的メガヒットを記録した「ジュラシック・ワールド」のシリーズ最新作「ジュラシック・ワールド／炎の王国」

「ジュラシック・ワールド」の名シーンを再現で主人公を演じたクリス・プラット、ブライス・ダラス・ハワード、J・A・バヨナ監督、製作総指揮を務めたコリン・トレボロウの豪華4名がユニバーサル・スタジオ・ジャパンに勢揃い。大人

（2018年7月13日全国ロードショー）の日本上陸を記念し、「ジュラシック・ワールド／炎の王国」スペシャルイベント「at ユニバーサル・スタジオ・ジャパン」が6月28日に開催された。

「ジュラシック・ワールド」の名シーンが目の前で再現された。また、登壇者全員は、20時過ぎに大人気の「ユニバーサル・スペクタクル・ナイトパレード」に登場する「ジュラシック・ワールド」のフロートにもサプライズ登場した。

物、登壇者たちが突如出現し、登壇者に襲い掛かるというハプニングが発生するとクリス・プラットにブライス・ダラス・ハワードが加わって、子どもとともに恐竜と心を通わせて静止する、というまさに映画「ジュラシック・ワールド」の名シーンが目の前で再現された。

気エリア「ジュラシックパーク」に映画ファンの子どもたちを引き連れて登場すると、詰めかけたファンからは大きな歓声があがった。ショーの最中には、本物の恐竜たちが突如出現し、登壇者に襲い掛かるというハプニングが発生するとクリス・プラットにブライス・ダラス・ハワードが加わって、子どもとともに恐竜と心を通わせて静止する、というまさに映画「ジュラシック・ワールド」の名シーンが目の前で再現された。

大量のイエローの紙吹雪で会場が包みこまれた。同時に公開された「ウォーター・サプライズ・パレード」では、びしょ濡れになって、ひと足早く夏を満喫するゲストの様子が見られた。毎年恒例のびしょ濡れパレードだが、今年はさらに、いっどこから水がかかってくるかわからないような工夫がされ、昨年よりもパワーアップした演出と水量で来場者に興奮を感動を与えそう。

潮流

新興市場に変化の兆し

今が夜明け前の最も暗い時期

marKet / bAnk

新興企業向け株式市場でジャスダック指数は1月の高値を天井として下落トレンドが続いて

いる。6月28日のジャスダック平均株価は4カ月半ぶりの安値となった。東証マザーズ指数は年初来安値を更新し、2017年9月26日以来およそ9カ月ぶりの安値となった。マザーズ指数は5日移動平均を抵抗線として右肩下がりが続いている。

今後、5日移動平均を超えて終わることができれば底打ちのサインだ。日経平均やTOPIXに採用されている大型株が本格的な上昇後、新興市場が買われることが良くある。まず、求められるのは東証1部市場に先高感が出ることだ。周期的なトレンドを捉えるエリオット波動では日経平均がまさにこの時期に上昇トレンドに転換するサインが出た。米国株式市場が再度高値を目指す動きが出てくれば日本株式市場は長期上昇トレンド入りすることになる。そのような動きとなれば新興市場も大きく戻すだろう。今が夜明け前の最も暗い時期だ。

新興市場では業績よりも、新薬など好材料で動くバイオ銘柄が売られている。ハイテクから外れたバイオ株は売る方が、利益が出ると見ら

れているようだ。外国人投資家の売りもあるが、メディシノバ(4875)のように外国人投資家の売り手口が見えなくても下落が続く銘柄もある。バイオ株は好材料が出れば大幅高となるが上昇が続かないと

一気に売り圧力が強まる。ただ、売り圧力が強まるバイオ株にも変化の兆しが出始めた。6月28日はアンジェス(4563)がストップ高となった。特に好材料が出た訳でもなく、後場からまとまった買いが入ると買いが買いを呼ぶ展開となった。売られ過ぎたバイオ株が好材料のニュースがなくても上昇する銘柄が増えてくれば底のサインと言える。

そのためには新興市場全体が上昇する必要がある。6月27日に新規上場したアイ・ピー・エス(4390)が翌日ストップ高となった。エーアイ(4388)も27日の新規上場日は買い気配で値がつかず、翌日も初値を大きく上回って終えた。今後、メルカリ(4385)が上昇し、IPO銘柄が買われ始めればそれがきっかけで新興市場全体が底を打って大きく戻すことが考えられる。

潮流銘柄はメルカリ(4385)、エーアイ(4388)、アイ・ピー・エス(4390)。



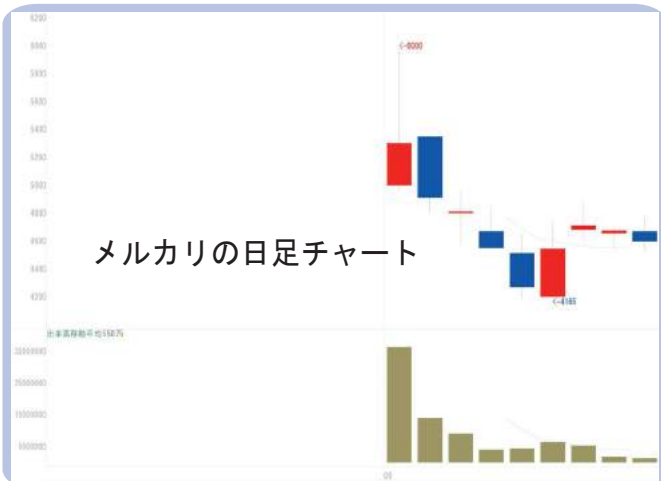
岡山 憲史氏(株式会社マーケットバンク代表取締役)のプロフィール

ら優勝。直近では2017年1月に始まった夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは15.5%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

約1万人の参加者の中から一回S1グランプリにて

バイオ、IPOに底のサイン

メルカリの日足チャート



チャートから読む 騰落銘柄

JR西日本(9021)



8000円割れまで売られたが、大阪北部地震後の運休ショックも沈静化し出直る。6月13日の高値8247円を抜けたことで、次ぎは5月1日高値8258円抜けから1月高値8636円を目指す動きに期待。

太陽誘電(6976)



大勢上昇トレンドのなか、日足は高値保ち合いを上放れる。セラミックコンデンサの好調で収益上振れ期待強く、22日現在の信用倍率0.64倍の好取組みも株価を押し上げ、噴き値のタイミングが近い。

日本M&A(2127)



6月13日に3610円まで上昇した後、下降トレンド。5月1日の安値3095円を下回れば、3000円割れから1月4日の年初来安値2660円までフシはない。144万株超の買い残も重石。

ラクオリア創薬(4579)



戻り試すも上値は重い。日足一目均衡表雲下限と13週移動平均に跳ね返されるかたちで、再び下値模索へ。信用買い残の整理場進まず需給が重荷で、当面1000円トビ台までの調整も。

今週の

活躍期待銘柄



ガンホー (3765)

妖怪ウォッチの新作に期待

ガンホー・オンライン・エンターテイメント(3765)は6月20日に269円の安値を付けた後、新タイトルの発表で動意付いてきた。ドラゴンクエストなどの人気シリーズの開発を担ってきたレブルファイブとの共同開発スマートフォン向けゲーム「妖怪ウォッチ ワールド」の配信を6月27日から開始、一世を風靡し、任天堂(7974)の株価上昇に貢献した「ポケモンGO!」と同様、GPSを活用した位置ゲームであることから利用者増から収益拡大への期待が高まっている。

今回の新作は「Google Maps Platform」の最新技術を採用しており、従来の位置情報ゲームよりもさらに立体的でリアルな体験が可能。「妖怪ウォッチ」のブランド力からも底値圏の同株も刺激を与えそうだ。(と)

「ポケモンGO!」を超えるか?



ダイキン工業 (6367)

ベトナム新工場が本格稼働

ダイキン工業(6367)は期日向かいの買いに着実に水準を切り上げ、日足に続いて週足も陽転。最高値1万4275円を射程に捉えてきた。言わずと知れた空調機業界の世界トップメーカーで、優れた省エネ技術と総合力を武器に業務用に加え、家庭用でも高シェアを占め、北米やアジアを重点市場として安定成長が続く。19年3月期は連結営業利益2700億円(前期比6.4%増)と引き続きピク益更新を見込むが、5月に本格稼働したベトナム新工場が収益に貢献して、くることから最低でも達成可能。エルニーニョ現象で今夏は北半球を中心に例年よりも気温上昇が予想されることもプラスに働くだろう。

空調ソリューションで成長加速

空調ソリューション事業で成長を加速。中期計画では3年後の21年3月期に連結営業利益3480億円を目指す。(さ)

高野恭壽の株式情報 **これでどや!!**

ようやくやく潮目に変化

株式市場新聞の名物コーナーが復活!



高野恭壽(たかのやすひさ)氏 1949年生まれ、大阪府出身。株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家として独立。講演会のほか、ラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに多数出演。「株式投資30カ条」など著書も執筆。

この欄を執筆している6月28日の東京市場は米国株式が下落し、5月安値を大きく切ったことを嫌気して売り先行が始まりました。しかし、月末の整理売りや一連の米国の強引な貿易政策などはほぼ織り込まれたことで、5月の安値を切るとは至りませんでした。

米国の自動車会社だけでなく、世界の自動車会社がトランプ氏の高関税政策は米国の景気を悪化させ、先行きの雇用に対して危機感が募るとトランプ氏にただちるように要望

2万3000円回復が7月メド

一貫して下落を続けていたグループが一斉に反発しました。逆にこのところしつかりしていたグループが反落するなど大きな潮目の変化を見せました。この動きを見る限り戻す可能性が強く、2万3000円回復が7月のめどになったといえます。

私の公式ページでは週初めに堀場製作、森精機、SUMCO、古河電工などの大きな下げ場面が反発に転じると指摘しました。しかし、すぐには反応しませんでした。したが、28日の相場では一斉に戻す動きが強まりました。当欄で一貫推奨のテックファーム(3625)は低迷していましたが、新たに安値を切ることはなく、安値圏での動きになっていました。6月決算であり、好業績が見込めますので7月には期待したいところです。大紀アルミニウム工業所(5702)もなんとか踏ん張っていました。

アンジェス(4563)が一時、ストップ高となりました。iPso(4680)も出番が近いと見えています。今日の狙いは引き続き、三井E&Sホールディングス(7003)、村田製作所(6981)が調整から出直る動きになっており注目です。カプコン(9697)も高値を更新し出直りです。ドワン(4680)も出番が近いと見えています。



高野恭壽公式ホームページ
高野恭壽の株式市場情報
これでどや!!
<http://www.kabun-takano.com/>
毎日情報を配信中!



ていけるせい、軽い揺れ程度で車内でも騒ぐ人は皆無かった。幸いにも駅から発車直後だったため、帰宅してみると、居住している地域が震度5強だったこともあり、建物はひび割れた状態で室内も散々たる状況だった。近所でも屋根瓦が落ちてくるなど被害は多いが、大工が不足している現状では修理も早急に行くことは厳しい。

筆者の住居は賃貸で被害状況から転居も仕方ないと思っているが、家族を含めて命が救われただけでも幸いだと思っている。小学校のブロック塀が倒壊し、女児が犠牲となったことは悲しい限りだ。筆者地元でも幼稚園の建設場所が断層帯に位置していることがここへきて問題視されているようだ。天災よりも人災で命を落とすケースも多い。改めて防災意識を高める必要があると痛感した。

星野三太郎の株街往来

～「天災は忘れた頃にやってくる」～

「天災は忘れた頃にやってくる」は寺田寅彦の伝説の警句だが、6月18日に発生した大阪北部地震はまさにそれを痛感した。

筆者の場合は取材先に向かうために電車で移動中に地震に遭遇した。電車には振動吸収装置が付いている。



四足歩行型ロボット活用へ

大和ハウス傘下のフジタとソフトバンクG

建設現場で「SpotMini」の実証実験

フジタと、ソフトバンクグループ（9984）傘下のソフトバンクロボティクスとソフトバンクの3社は、建設現場におけるBoston Dynamics社の四足歩行型ロボット「SpotMini」の活用に向けて、6月に実

大和ハウス工業（1925）傘下のSpotMini、Handleなど、世界で最も先進的なロボットを開発している。今回の実証実験では、建設現場におけるSpotMiniを使った巡回や進捗管理、安全点検などの業務への活用の可能性を検証。今後は、SpotMiniを建設現場で活用するため



SpotMini（スポットミニ）

証実験を実施した。Boston Dynamics社はBigDog、Atlas、Spot、SpotMini、Handleなど、世界で最も先進的なロボットを開発している。今回の実証実験では、建設現場におけるSpotMiniを使った巡回や進捗管理、安全点検などの業務への活用の可能性を検証。今後は、SpotMiniを建設現場で活用するため

不足が課題となっている。また、ここ数年の堅調な国内建設投資に加え、今後は社会資本ストックの老朽化に伴う維持管理・更新も予測されており、建設現場での革新的な生産性向上や業務効率化を進めていく必要がある。3社は、実証実験を通して、建設現場でのロボット活用の効果を検証し、建設業界における生産性向上や業務効率化に寄与することを目指す。



のデータを収集し、センサーやカメラなどを搭載したモジュールなどの開発を行い、2019年夏以降の本格活用に向けて準備を進めていく。

建設業界では、高齢化された技能員や施工管理職の大量離職に加え、新規入職者の減少による将来的な建設就業者

上値の重い展開続く

下値メドは上昇幅の61.8%押し

トランプ大統領の貿易摩擦で世界のマーケットが警戒感を抱き始めています。特に中国に対しては厳しく、知的財産権侵害を巡る問題で約1100億ドルの制裁関税を發動するとの噂が流れています。その第1弾として7月6日に約820品目(約340億ドル分)を發動するとしていられる。これに対し中国も同規模の制裁措置を發動すると発表し、米中の貿易戦争は不可避の状況となっている。貿易戦争が本格化すると世界経済が縮小するのは必至、マーケットは米中の要人の発言に振り回されているのが現状であろう。

このような影響により、海外勢も日本株売りに回っているようである。東証が

発表した6月第3週の投資家別売買動向では海外勢は現物株を約430億円、先物で約4220億円売り越したようである。3週ぶりに売り越しに転じたが、貿易戦争に見通しがつかまでは買い越しに転じることがなさそうである。

チャートの形的にも日経平均は上値の重い形となっており、右肩上がりだった各種移動平均線も5日線、25日線が下向き75日移動平均線(2万2175円)を挟んだ動きとなっている。かろうじて終値としては200日移動平均線(2万2077円)が下値支持線として意識されているがリバウンドが弱い。200日線を割ってくると目下は5月30日の安値2万1931円6銭のラインを割り込むと5月21日の高値2万2000円を突破する「ダブルトップ」が完成する。強い売りシグナルとされる形状の注意

敏腕先物トレーラー ハチロクの裏話

発表した6月第3週の投資家別売買動向では海外勢は現物株を約430億円、先物で約4220億円売り越したようである。3週ぶりに売り越しに転じたが、貿易戦争に見通しがつかまでは買い越しに転じることがなさそうである。

チャートの形的にも日経平均は上値の重い形となっており、右肩上がりだった各種移動平均線も5日線、25日線が下向き75日移動平均線(2万2175円)を挟んだ動きとなっている。かろうじて終値としては200日移動平均線(2万2077円)が下値支持線として意識されているがリバウンドが弱い。200日線を割ってくると目下は5月30日の安値2万1931円6銭のラインを割り込むと5月21日の高値2万2000円を突破する「ダブルトップ」が完成する。強い売りシグナルとされる形状の注意

今週のスケジュール

- 2日 6月調査日銀短観(8:50)
6月新車販売台数(14:00)
2018年分の路線価公表予定
ユーロ圏5月失業率(18:00)
6月ISM製造業景況指数(23:00)
- 3日 6月マネタリーベース(8:50)
北太平洋漁業委員会(NPFC)の年次総会(~5日)
米5月製造業受注(23:00)
- 4日 休場:米(独立記念日)
- 5日 米6月ADP雇用統計(21:15)
米6月ISM非製造業景況指数(23:00)
6月12・13日開催のFOMC議事録
- 6日 5月家計調査(8:30)
5月毎月勤労統計調査(9:00)
5月景気動向指数(14:00)
日銀「生活意識に関するアンケート調査」の結果
GPIFは17年度の運用実績を公表
米6月雇用統計、米5月貿易収支(21:30)
米中は制裁関税発動の可能性

母が知人と有名な神社近くのそば屋にいったあと、体調を崩した。身体がだるくて吐き気がするという。食事をしてから境内の長い階段を昇ったらしいので、おおよそ見当はついていて、念のためには病院で診察してもらおうとやはり熱中症だった。週中から蒸し暑い日が続いたが、予報によると今夏は全国各地で例年よりも気温が高く、エルニーニョの影響で世界的にも北半球の多くの地域で気温が上昇するという。

トランプ発言に右往左往の東京市場だが、猛暑関連にも目配せしておきたい。

編集後記

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被らねたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。